



Okamoto Shūki

岡本秋暉

百花百鳥に挑んだ 江戸の絵師

摘水軒コレクションを中心に

2024年6月28日「金」～8月25日「日」

前期：6月28日「金」～7月28日「日」

後期：7月30日「火」～8月25日「日」

◎休室日：7月1日「月」、8日「月」、29日「月」、8月5日「月」※第1月曜日は全館休館
◎開館時間：10時～18時「金」、土曜日は20時まで※入場受付は閉館の30分前まで
◎主催：千葉市美術館、公益財団法人摘水軒記念文化振興財団
◎特別協力：平塚市美術館
同時開催「江戸絵画縦横無尽！摘水軒コレクション名品展」

Myriad Birds and Flowers
Painting by Okamoto Shūki
from the Tekisuken Collection



千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

Without Boundaries
Masterpieces of Edo Painting
from the Tekisuken Collection

江戸絵画縦横無尽！

摘水軒

コレクション名品展

2024年6月28日「金」～8月25日「日」

前期：6月28日「金」～7月28日「日」

後期：7月30日「火」～8月25日「日」

◎休室日：7月1日「月」、8日「月」、29日「月」、8月5日「月」※第1月曜日は全館休館
◎開館時間：10時～18時「金」、土曜日は20時まで※入場受付は閉館の30分前まで
◎主催：千葉市美術館、公益財団法人摘水軒記念文化振興財団
◎特別協力：府中市美術館
同時開催「岡本秋暉 百花百鳥に挑んだ江戸の絵師—摘水軒コレクションを中心に—」

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art



江戸の絵師
岡本秋暉
百花香鳥に挑んだ



岡本秋暉《白梅孔雀図》
安政3年(1856) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



岡本秋暉《百花百鳥図》
江戸時代(19世紀) 紙本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵

展覧会関連イベント

講演会
「岡本秋暉と江戸の花鳥画」

講師：伊藤紫織(尚美学園大学教授)
7月20日(土) 14:00～(13:30開場予定)
11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

講演会
「肉筆浮世絵の魅力

講師：浅野秀剛(大和文華館館長・あべのハルカス美術館館長)
8月3日(土) 14:00～(13:30開場予定)
11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

夏休み！スペシャル子どもウィーク

8月6日(火)～12日(月・祝)
子どもも楽しい企画がもりだくさん。スタンプラリーやビンゴ、工作ワークショップに木版画の摺り体験も！
※詳細は美術館ウェブサイトをご確認ください

岡本秋暉

(1807-62)は濃厚華麗な花鳥画、とりわけ孔雀の名手として名を馳せた江戸後期の画人です。彫金家・石黒家の次男として生まれた秋暉は、南蘋派の大西圭斎に画を学び、20代には既に絵師として活躍していました。一方で小田原藩・大久保家に仕える藩士としての顔も持ち、江戸藩邸に勤めながら精力的に制作を続け、同時期に活躍した渡辺華山や椿椿山らと親交を結びました。

彼が最も得意としたのは鳥の図です。憩意の小鳥店に通い写生に励んだという逸話もあるほど、鳥の描写をひたすらに研ぎ澄まし、透明感溢れる華やかな色彩と、羽の美しさを描き尽くす驚異的な技巧で江戸の人々を魅了しました。

実に18年ぶりの回顧展となる本展では、世界一の秋暉コレクションを擁する摘水軒記念文化振興財団の所蔵品を中心に、約100件の作品で、生い立ちから画業を通覧します。細緻を尽くす花鳥画から、藩主の御殿を飾った杉戸絵、小田原が誇る偉人の肖像画《二宮尊徳座像》(報徳博物館蔵)まで。その作品群からは、自らを花鳥の画家として認識して技量を磨きながら藩士としての任も果たし、さらに同時代の画家達の活動に目配りしながら中国画の摂取に努める、堅実な画人の姿が浮かび上がります。彼が生涯をかけて紡ぎ出した鮮やかな花鳥の楽園を、どうぞご堪能ください。

※会期中展示替えを行います。



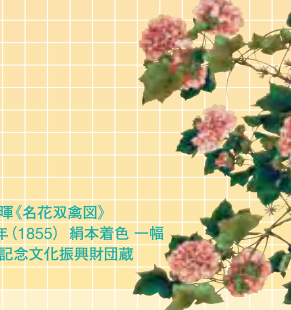
岡本秋暉《鯉図》
江戸時代(19世紀) 板絵着色 二面
小田原城天守閣蔵



岡本秋暉《二宮尊徳座像》
天保13年(1842)頃 絹本着色 一幅
報徳博物館蔵



岡本秋暉《百花一瓶図》
江戸時代(19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



岡本秋暉《名花双禽図》
安政2年(1855) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵

美術館ボランティアスタッフによる
ギャラリートーク

会期中の毎週水曜日(7月31日、8月14日を除く)
14:00～14:30
8階展示室にて／先着15名(当日13:30より8階受付にて整理券配布)／参加無料(要展覧会チケット)
※水曜日以外の14:00にも開催することがあります
※混雑時には中止する場合があります

ちばしば託児サービスデー(事前申込制)

7月24日(水) 13:00～16:00
※詳細、申込方法は美術館ウェブサイトをご確認ください

【同時開催】

5階常設展示室
「千葉市美術館コレクション選」

休室日：第1月曜日、7月2日(火)
※企画展をご観覧の方は無料

4階子どもアトリエ
「つくりかけラボ15 齋藤名穂 | Tactile Hunt Weaving Space 空間をあむ てざわりハンティング」

2024年6月12日(水)～9月29日(日) 観覧無料

摘水軒

記念文化振興財団(千葉県柏市)は、岩佐又兵衛《弄玉仙図》(重要文化財)をはじめとする肉筆浮世絵や、伊藤若冲《旭日松鶴図》等の花鳥・動物画を核とする国内有数の江戸絵画コレクションを所蔵しています。同財団のルーツである寺嶋家は江戸時代、柏村の名主を務め、水戸街道沿いの居宅「摘翠軒」は文人墨客が集う文化サロンのな

役割を果たしていました。

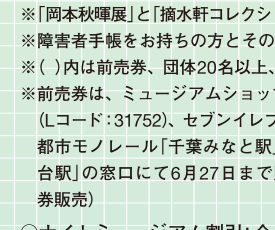
現在の同財団所蔵品は、寺嶋家に逗留した幕末の絵師・岡本秋暉の作品をはじめとする伝来品を母体とし、発展させたものです。肉筆浮世絵では菱川師宣、勝川春章、鳥居清長、東洲斎写楽といった代表的な絵師の優品が揃う一方、花鳥画・動物画では若冲や、円山応挙のような有名な絵師のみならず、江戸中後期を彩った南蘋派や洋風画、逸伝の絵師によるユーモラスな作品まで多岐にわたります。その収集はまさに縦横無尽。個人コレクションならではの自由で直感的な審美眼で選り抜かれた作品群は、見る者に江戸絵画の豊饒さ、純粹に絵と向き合うことの喜びと楽しさを語り掛けてくれることでしょう。本展は選りすぐりの約100件によって摘水軒コレクションの全容を紹介する、過去最大規模の機会となります。



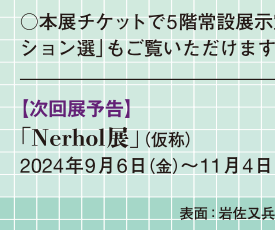
勝川春章《雪月花園》(左幅)
天明期(1781-89)頃
絹本着色 三幅のうち 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



鳥居清長《三代目瀬川菊之丞》
天明3年(1783)頃 紙本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



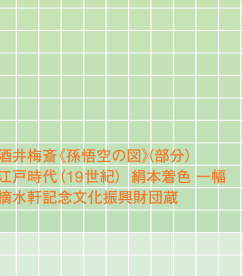
三熊花類《群蝶図》(部分)
江戸時代(18世紀) 絹本着色 一巻
摘水軒記念文化振興財団蔵



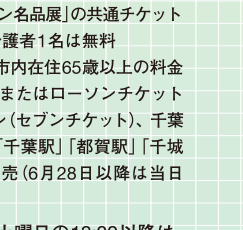
酒井梅斎《孫悟空の図》(部分)
江戸時代(19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



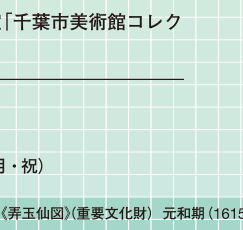
菱川師宣《美人立姿図》
元禄期(1688-1704) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



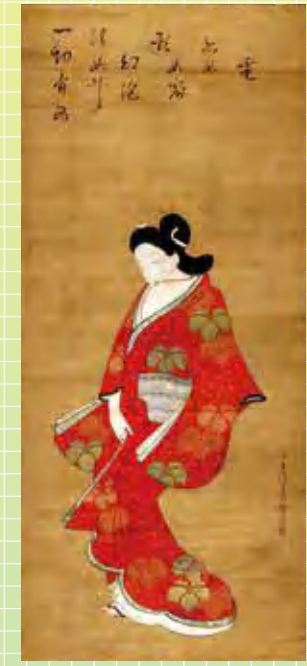
石川孟高《犀図》
江戸時代(18-19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



司馬江漢《馬入川雷士遠望図》
寛政年間(1789-1801) 絹本油彩 一面
摘水軒記念文化振興財団蔵



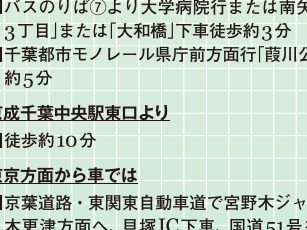
葛飾北斎《雪中驚図》
天保14年(1843) 紙本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



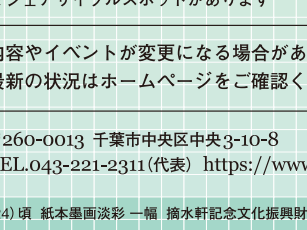
三熊花類《群蝶図》(部分)
江戸時代(18世紀) 絹本着色 一巻
摘水軒記念文化振興財団蔵



酒井梅斎《孫悟空の図》(部分)
江戸時代(19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



菱川師宣《美人立姿図》
元禄期(1688-1704) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



石川孟高《犀図》
江戸時代(18-19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



司馬江漢《馬入川雷士遠望図》
寛政年間(1789-1801) 絹本油彩 一面
摘水軒記念文化振興財団蔵



葛飾北斎《雪中驚図》
天保14年(1843) 紙本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



三熊花類《群蝶図》(部分)
江戸時代(18世紀) 絹本着色 一巻
摘水軒記念文化振興財団蔵



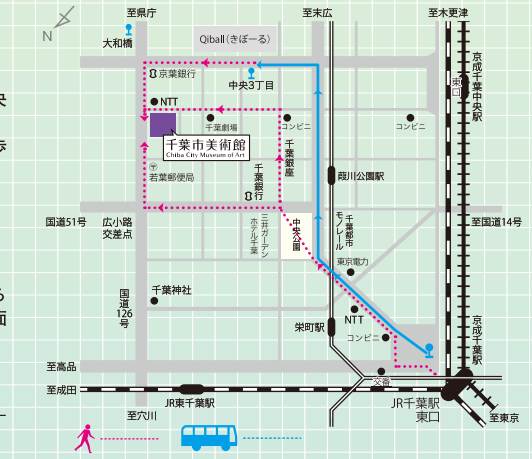
酒井梅斎《孫悟空の図》(部分)
江戸時代(19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



菱川師宣《美人立姿図》
元禄期(1688-1704) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



石川孟高《犀図》
江戸時代(18-19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art